

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

県大会実践発表「歴史文化研究会の取り組みと地域への派生」
新潟市北地区公民館主査 服部 尚人

4.5

- 2 トピックス 「第63回新潟県公民館大会開催・糸魚川市」
- 3 視点 「日頃思うこと」 柏崎市・山崎 将宏
- 3 ひろば 「チェンジ」 小千谷市・佐藤 文男
- 6 実践記録シリーズ 「新潟市味方地区の青少年事業について」 新潟市・笹川 久雄
- 7 サークル交流 「人生のハーモニー」(上越市) / 「楽しく洋画制作」(五泉市)
- 7 素顔拝見 杉田世里香さん(長岡市) / 池田 正夫さん(糸魚川市)
- 8 お元気ですか 見附市・土田 秀明さん
- 8 information



山頂でのラジオ体操

表紙解説

4～10月に毎月1回行われる護摩堂山早朝ハイキング。
晴れた日の山頂で迎える朝は、最高に気持ちが良いものです

第63回新潟県公民館大会開催・糸魚川市

今年度の県公民館大会が7月20日(金)に糸魚川市青海総合文化会館で開催されました。県内各地からの参加者は490名で、当初の予想を大きく超える大盛況な大会になりました。

会場いっぱい参加者



中、下越、新潟地区からは遠方の地である糸魚川市に多数の参加者があったのは、市町村公民館の事務局の努力のたまものではないかと推察しています。
開式セレモニーは田原秀夫

大会実行委員長の開式の言葉で始まりました。

田原実行委員長開式宣言



＊演壇脇の盆栽は糸魚川名産「真柏」時価〇百万円？

今大会のために有志の方から特別にお借りました。

ご来賓は県教育長様をはじめ11名の方々をお迎えしました。祝辞、歓迎のあいさつ等の後、永年勤続者4名の表彰を行いました。本年度の受賞者は次の方々です。敬称略

(一)内は所属公民館
鏡 幸平

(新潟市中之口地区公民館)

水上三枝子

(新潟市黒崎地区公民館)

高森 精二

(長岡市公民館)

野俣 幸子

(上越市高田地区公民館)

三郷分館)

受賞者4名



続いて、記念講演が行われました。

講師は地元フォッサマグナミュージアム学芸員・宮島宏氏で、約1時間にわたって「世界遺産ジオパークと糸魚川」を紹介し、人づくりとまちづくりについて語りまし

た。軽妙な話しぶり聞いてる者を飽きさせない内容で参加者を魅了しました。午後は、アトラクションの披露から始まりました。糸魚川は太鼓演奏が盛んな地域で太鼓グループが多くありますが、その中から全国発表の経験がある「越後親不知太鼓」が出演し見事な演奏をしました。

迫力満点太鼓演奏



事例発表は中越、下越、新潟地区から3名の発表がありました。それぞれが日ごろの実践に基づいた発表で、新し

い公民館事業の活動例を紹介しました。司会者(上越教育事務所・望月正樹課長)が発表の内容について会場との質疑応答を呼びかけると、複数の参加者から手が上がり、活発な意見交換がなされました。

事例発表3人



大会を終えて。主管公民館と地元の実行委員の皆さんの立派な活動ぶりが目立ちました。実り多い大会にしていたいただきありがとうございます。(事務局・田原)

視点

「日頃思うこと」

新潟県生涯学習協会理事 山崎 将宏



ご当地柏崎から公民館の影が薄くなって10年近くになる。というの、以前「柏崎方式」といわれ、公民館とコミュニティが一つ屋根の下に同居し、車の両輪よろしく、互いの利点を高めあい運営されていた。

ところが、時流とでもいうのか、地域のことは地域で、公設民営とかいわれ、二つの違いは何なのか、住民からは見えない。いっそ一つにしてしまつたらと言うことになつて、小学校区ごとにあつた公民館はコミュニティセンター

と名称を変え、地域の主として振興会等が運営することになり、公民館は中央に一つとなつてしまつた。

センターは文化やスポーツのサークルで賑わい使用会場は時間の調整があるほどの盛況ぶり、地域が活性化し、まことにありがたい幸せである。

だが一つ、懸念するのは公民館が果たしてきた役割の一つである公民の資質向上の場や、機会が少なくなつてきてはいやしないかとそのことを思う今日この頃である。

H O T N E W S

掲 示 板

第34回 全国公民館研究大会 in滋賀の開催

今年の全国大会は滋賀県・大津市で開催されます。

大会テーマは「今こそ活力ある公民館活動を求めて」

～新しい公民館像と役割を求めて～
です。主な日程は1日目の午後からで、記念講演(天台宗・酒井雄哉氏)パネルディスカッション(テーマ:災害と公民館)、2日目に分科会(前半、後半5分科会で実施)です。

会場は全体会場、分科会場とも大津市で開催されます。

琵琶湖のほとりで風光明媚な所です。

- ・開催期日:平成24年10月11日(木)、12日(金)
- ・申込締切:8月24日(金)
- ・参加料:4,000円
- ・申込み先:県公連事務局
- E-mail ni-koren@juno.ocn.ne.jp
- ・申込書類や大会開催要項は各市町村中央公民館にあります。

不明な点は下記まで
県公連事務局 担当:島津和子
TEL/FAX 025-266-7711

チェンジ

ひろば

小千谷市社会教育委員長 佐藤 文男

どこの地域においても高齢化が進み、高齢者の趣味や学びの公民館活動は比較的活発である。人生後半をより充実させるためには大切なことである。

に、人々の結びつきが弱まり、地域が衰退した。人々は利己的な思考、行動に走つて社会全体が不安定になっているのである。

一方、多忙な成人や地域の人々の活動は十分とは言えない。これからは一層少数化してくる若年層や、地域の結びつきを深める活動を活性化させていかなければならないと思うのである。ここに社会教育委員や公連審委員の出番があると考える。

このような世相を変えていくには、まず私たちの物の考え方、価値感のチェンジが必要となる。単なる論理に終わるのではなく、日々の行動、生活を変えることである。その意味からも、公民館活動の内容、方法を見直すべき時に来ているのではないだろうか。

社会は大きく変わりつつある。明治維新や第二次世界大戦後に匹敵する第三の大変革期と言えらると思う。物や生活が豊かになると共



研究会の取り組みと地域への派生」

雄は、「日本一のイクラ」と絶賛したとも伝えられています。また、この通りには西郷隆盛が1カ月ほど滞在した坂井家も現存（建物は当時のものではない）し、官軍に殺害された庄内藩重役の石原倉右衛門の墓と殉難遺蹟の碑があります。

この事業に参加したことをきっかけに、あらためて個人でおいでくださったり、2回目の参加をいただいています。今後も少しずつ工夫を重ねながら息の長い事業にしていきたいと思えます。

そして、多くの住民が地域に誇りを持ち、「住んでよかった」といえる地域になるよう、北地区公民館は努めています。

4. 有情のまちの中学生ガイド養成

この事業は、若い人たちが地域の歴史や文化を理解し、学んだことを小中学生や地域の人たちにガイドすることにより、コミュニケーション能力の向上を目指すことを目的として企画しました。

そこで、平成22年度に地元の松浜中学校に呼びかけ、担当の教師・地域教育コーディネーター・北地区公民館及び前述の平田・上松両氏にも加わっていただき企画会議を開催し、実施内容や時期などについて検討を重ね、翌23年度から実施できるよう協議がまとまりました。

しかしながら、中学生は部活動をはじめ、年間を通して学校内外の予定も多く、実施計画を立てることも容易ではありませんでした。11月になり生徒会役員も新しくなり、2年生主体の役員が受講生となることになり、年明け2月後半から実施の方向で準備をすすめました。

講義はもっぱら屋外で行うため、天候に左右されることは避けられず、3月中にようやく1回の実施をみました。

上記の経験を踏まえ、今年度は部活動が落ち着く6月から開始し、8月の夏休みには広報で参加を呼び掛けた小中学生や地域の人たちへのガイドを実施することとしています。全体をいくつかのパートに分け、数人で受け持ちます。中学生らしいガイドを実践していただければ、意味のある事業であると思えます。



中学生に丁寧に説明する平田さん

来年度も課題を洗い出し、より成果のある事業としていけるよう努めています。

5. 南浜地区「未来への遺産プロジェクト」

新潟東港に隣接する南浜地区（旧南浜村）は、北地区の中でも海外向けの中古車業者の事務所や展示場も多く、日常的に外国からの人々を多く見かける地域です。

日本海を挟んでロシア・韓国・中国などと向かい合い、人も物も多く行きかう現在。北地区公民館では、平成20年度にロシア語講座、21年度に韓国語講座、22年度に中国語講座、23年度にロシア語講座、今年度に韓国語講座のいずれも初級会話編を開講してきました。そして、そこから自主グループが生まだされてきました。



上杉謙信にゆかりある名刹「西巖寺」

このプロジェクトは、この地域での国際交流を活発にしていけるため、地域の歴史や文化を掘り起こし、冊子やDVDにまとめ、地域の人たち、とりわけ子どもたちが学べる資料とし、地域の誇りを一層増進させることで、諸外国の歴史や文化から培われる価値観など、相互に理解するための糧とできるものと思えます。

現在は、昨年12月に設立した『南浜地区「未来への遺産プロジェクト」実行委員会』を中心にして、抽出した課題・テーマに基づき調査・研究がすすめられています。

6. 最後に

「歴史文化研究会」のきっかけは、たまたま偶然集まった人たちが茶飲み話し程度に、この地域のことを語りあったことだったのかも知れませんが、結果として北地区公民館の主催事業の多くにその力を発揮していただいているところです。

歴史は意図してつくられたものではなく、多くの人たちの日々の生活の積み重ねが歴史として残されてきたことの一側面だと思います。そのような点からも、地域を考え、地域を語るいかなる場面でも大切な基礎になっていることと感じざるを得ません。

この場をお借りして、北地区公民館の職員として「歴史文化研究会」の会員各位に、深く感謝申しあげるしだいです。

特集

県大会実践発表「歴史文化」



新潟市北地区公民館主査
服部 尚人

1. 「歴史文化研究会」とは

この会は、松浜の有志が「松浜の昔を語る会」として、10数人が北地区公民館に集まり研究を始め、その後北地区全域から会員が集まり「歴史文化研究会」の名称で、北地区公民館の主催事業として広く地域に成果を還元することを趣旨として活動を重ねてきました。

忘れ去られていくだろう歴史や文化などを後世に残そうということで、会員自ら調査・研究・編集などを手掛け、阿賀野川河口付近の渡船事故のことや悲願の架橋についてなどをまとめた「松浜橋ものがたり」、戦中・戦後のこの地域の現状を綴った「戦後60年記念誌」、20数年続く松浜本町商店街の機関紙（毎月2日発行、1月は除く）である「松浜かわら版」に掲載されたコラムなどを一冊にまとめた「郷土の四方山ばなし」、松浜での生活や仕事にまつわる品物や様子などを絵にして孫に教えた、斉藤翁の描きためた資料を絵本とした「挿絵が語る松浜のくらし」など、どれも郷土の大切な資料として発刊してきました。

現在も毎月第3木曜日の午後に北地区公民館に集まり、資料を持ち寄っての学習や新たな研究テーマを探ることを続けています。

2. 新たな事業を展開することの背景

阿賀野川の対岸には「新潟空港」があります。北地区公民館をかすめるように着陸態勢の飛行機が連日通過していきます。海外4路線（ほかロシア2路線は休止中）のほか、国内8路線28機が毎日離着陸を繰り返しています。

そこから少し西に進むと、佐渡や北海道などを行き来するためのフェリーターミナルを中心に、新潟西港があります。

そして、北地区の北端にはコンテナ物流の拠点となっている新潟東港があります。

このように新潟市、いや新潟県の人と物の流れの中心に北地区があることが、ご理解いただけると思います。

地域及びその近郊には、外国からの人も多く在住しています。言葉を聞かないと日本人と見分けがつかない中国や韓国からの人たち、明らかに肌の色や顔立ちの違うロシアやインド・パキスタン方面からの人たちなど、地区内には小さいながらもモスク（イスラム教の礼拝堂）もあります。

以前には、外国からの人たち同士の殺人事件や不法投棄などといったこともあり、地元の人たちに

は怖い人たちが、近寄りたくない存在でありました。

しかし、環境を保全するためには規制をすることも大切なことかもしれませんが、相互が交流しそれぞれの文化を理解することもそれ以上に大切なことであり、北地区公民館では「相手を理解するためには、まずは自分の地域の歴史や文化を正しく学ぶことが大切」と考えました。

3. 「有情の町のまち歩き」

～北の町人衆が松浜本町商店街をご案内～

現在の新潟市北地区は、おおむね白新線を境に北はかつての砂丘列、南は福島潟に代表される低湿地帯です。そのため、北区全体としてはほぼ平坦な地形をしていますが、一番新しい砂丘列に当たる松浜などは、海拔22メートルほどの松浜稲荷神社を頂点に町が形成されたため、山間地の人には笑われるかも知れませんが、坂の多い町になっています。



名調子でガイドする平田さん

現在の阿賀野川は北区と東区の間を流れて日本海に注いでいますが、1763年までは左に折れて信濃川と合流して海に出ていたそうです。そのため、松浜と空港のある地域とは陸続きであり、その名残として現在の空港所在地名は、東区松浜町となっています。

平成21年、松浜本町商店街界隈の魅力を外内に発信し、住民が地域への誇りを持てるよう、歴史文化研究会の会長である平田さんをガイドに、商店街の事情に明るい上松さんをコーディネーターとしてこの事業をはじめました。

9月初旬の2・7の松浜市の開催日に、マイクロバス1台で20人を募集して2回開催しました。市報に掲載したこともあり、他区から多くの参加者がありました。歴史や文化をお伝えするとともに、松浜市での新鮮な野菜などの購入、地産の食材により提供される昼食など、予想以上に好評を得て、以来この時期に昨年まで計7回開催しました。

松浜稲荷神社のいわれを聞き、市場で買い物をし、昭和の風情が残る松浜本町商店街を楽しみ、現在は裏路地になったかつてのメインストリート北国浜街道。そこには劇場や料亭などもあったそうで、今も建物が残る旧「料亭港屋」で作家榎一

実践記録

173

シリーズ

新潟市味方地区の青少年事業について

新潟市味方地区公民館 笹川 久雄

味方地区の青少年関係事業について記載して実践記録とします。

◎関係団体との連携が多く、協力的

これらの事業の特徴として、関係団体との連携事業が多いということが言えます。小中学校はもとより、地域と学校パートナーシップ事業による「おむすびクラブ」、青少年育成協議会、味方児童館、育児サークル「リトルクラブ」などです。

◎味方小学校のおむすびクラブ

特に、おむすびクラブは、味方小学校が地域と学校パートナーシップ事業に取り組んだ成果で、空き教室に地域教育コーディネーターの働きかけで、多くの地域のボランティアや住民が学校を訪れて、児童と時間を共にしています。



(平成23年度ボランティア数 実人数101人延べ552人)。活動の内容は、学校の環境美化(花いっぱいあばの会)、児童の見学引率(学習ボランティア会)、授業でのミシン指導や将棋、コンピュータなどのクラブ指導(登録講師会)と、広範囲に及んでいます。宿題片付け隊は、夏休みと隔月で実施しており、3割以上の児童が参加しています。

◎おやじの会にはOBも活躍・今年は北海道でキャンプ

公民館とおむすびクラブの共催事業としては、「いきいき子ども塾」があります。1年生から3年生を対象にした地域のお寺での宿泊体験です。共催ということで、公民館は、講師の予算などを担当し、おむすびクラブが当日の事業展開のほとんどを担っています。

なお、4年生から6年生については、県内のキャンプ場での宿泊体験事業を、「おやじの会」と地区青少年育成協議会が共催で開催しています。平成24年度においては、旧味方村時代の姉妹町であった北海道の様似町への3泊4日の事業が計画されています。

おやじの会は、数年前に同クラブが児童の父親に声を掛けて結成した会で、生徒のお父さんの外にPTAのOBも献身的に活動を支援しています。

◎味方児童館との連携

味方児童館では、子ども向けの事業を日々展開するほか、公民館と連携して「子育て講座1・2」を実施しており、企画を双方で協議しながら、周知・募集などは児童館の人脈・情報を生かして行っています。

◎おはよう朝ごはんの実践について

新潟市の公民館では平成19年から「おはよう朝ごはん料理講習会」を地域の総括的市民団体である地域コミュニティ協議会と協働で実施していますが、味方地区においても、食生活改善委員(食推)の協

力を得て、食育を兼ねて同料理教室を毎年実施しています。今年6月15日に実施しましたので、最後にこの事業についてご報告したいと思います。

◎楽しくゲームをしながらの食育

食推から日程、メニューなどの内容について提案があり、チラシなどの募集は公民館で担当しました。募集は、依頼文書とともに味方小学校へ持参。参加者12人。当日は、味方児童館を会場として、食推による話。参加児童は、バランス良く食べるように食品の栄養素についてゲームをしながら楽しく学びました。「みなさん、この食べ物は何色ですか。」という問いから始まったお話。主としてエネルギーとなるものは黄色、体の骨や肉、血となるものは赤色、体の調子を整えるものは緑色とし、様々な食品をゲーム感覚で学びました。特に食推の方が手作りされた食材の縫いぐるみは、好評でした。

◎じっと見守る手元 好評だった料理教室

ゲームで少し疲れた頃、隣りの健康センター調理室に移動し班編成の後、料理にチャレンジしました。



この日は、肉まきおにぎりとかぼちゃ汁。

危なっかしい手つきの子どももいましたが、だんだんとできるようになり、褒められて喜んでいる児童もいました。

3年生もいたので、食推の方は12人に対して7人の多めのスタッフを食推で対応していただきました。なるべく手をださないように、危ない手つきに注意しながらも、じっと我慢され、こどもらは時間をかけながらも自分でできた達成感があったようです。

◎大人とのふれ合いも大切な体験

食べながらの子どもらと食推との何気ない食べ物や小動物の会話も児童には良い経験となっていました。

そのため、多くの参加者が、また参加したいと言いながらレシピを大喜びでもらって帰って行きました。

アンケートも「大変満足」、「今後も地域のイベントに参加したい」が100%と満足感があったようです。

◎地域での取り組みの可能性

料理教室というと、身近なものなのでマンネリ感を持ってしまいがちでしたが、インスタント食品が広く普及している今日、「家庭料理」、「和食」も意識して家庭以外でも体験する機会をもつ必要があると感じています。

味方地区は農業が盛んなところであり、また、B級グルメなどにもみる今日の「食」への関心を見ると、前述の充実した支援体制をさらに活かしながら、「食」を体験活動の中心の一つとすることで、地域全体の特徴ある活動にできないかと考えています。

人生のハーモニー

マイル・クワイア3½

人口二十万人の上越市には合唱団が四十団体ほどありますが、男声合唱団はわずか三団体しかありません。その一つがマイル・クワイア3½(さんか)にぶんのいち)です。3½という奇妙な名前は、実は団員の平均年齢を表わしているのです。参加資格は年齢が六十歳以上ということだけで、様々な職業で様々な人生の二十年の節目を三回とその半分の十年を乗り越えてきた歌好きの男たちの合唱団、と



いう意味なのです。

平成十八年四月に団員六名で発足して、現在は十七名、月三回の木曜日午後、公民館高田地区館や金谷分館で、男声合唱の醍醐味と人生のハーモニーを楽しんでいます。

上越市・マイルクワイア3½
阿部 寿郎 記



楽しく洋画制作

彩の会

生涯学習の講座の洋画教室として平成22年からはじまり、「もっと洋画を制作したい」という同じ志を持った人達が集まって結成し、2年目になりました。

講師の指導の下、月に2回

ほど市立図書館に集まって洋画制作に励んでいます。

アットホームな雰囲気の中、皆、家族のように話し合いながら、市展・県展の出品及び入選に向け、作品を制作しています。

作品は人それぞれで、風景画や人物画、またハガキサイズから大きなサイズのものまで様々です。

これからも楽しく活動し、多くの方々に「彩の会」の作品をみていただきたいと思えます。



五泉市・彩の会代表

松川ヒサシ 記

昨年から能生地区公民館館長として大忙しの池田正夫さんを紹介します。

館長は、能生地区町内会連合会長や能生地域審議会会長他、多数の顔を持つとても人望の厚い方で明るく知識も豊富、タフで疲れを知らない超人です。質問すると即回答、相談すると即対応してくれるスピードもあります。苦手なことはただ一つ、園芸(畑や花など)でしょうか??



能生地区公民館
館長 池田 正夫さん

館長に会うために、毎日たくさんの方々の地域の方々や区長さん方が入れ替わり来てくれます。おかげで地域との連携も良く取れて、笑い声の絶えない公民館事務所になっています。

これからも頼りにしています! 館長さん♪
(能生地区公民館 土田 直子 記)

平成24年度新採用で生涯学習文化課(中央公民館)に配属された「平成生まれ」の杉田世里香さんを紹介します。私たち職員だけでなく、公民館利用者からも「スギちゃん」の愛称で慕われています。時には、本家に勝るとも劣らないワイルドな発言で周囲を驚かせています。

回りは昭和世代だらけで、話が通じないことがあるかもしれないけれど、諦めないで!

独り言①何も無いところで



長岡市中央公民館
主事 杉田世里香さん

ぶのはなぜでしょう? あせらずゆっくりと。独り言②何回通っても全く道を覚えられないスギちゃん。次元が違います!

方向がわからないだけならOKだけれど、自分を見失うことは無いようにしてください。

今後の活躍に職員一同、期待しています。
(長岡市中央公民館 早川 仁 記)

素顔拝見

「家庭の日」カレンダーの写真募集

県では毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、明るい家庭づくり運動を展開しています。その一環として「家庭の日」カレンダーを作成します。このたびカレンダーに掲載する写真を下記のとおり募集しています。

- 1 主催
新潟県・青少年健全育成県民会議
- 2 応募方法・応募資格
紙焼き、データのどちらでも可・県内在住の方
- 3 応募期間
平成24年9月30日(日)まで
- 4 その他
 - (1) 一人3点まで応募可。
 - (2) 写真に写っている方の了解をえてください。
 - (3) 応募方法等の詳細は下記担当まで
新潟県庁児童家庭課青少年育成係 担当：岡村
TEL 025-280-5214
E-mail: ngt040270@pref.niigata.lg.jp

お元気ですか

土田 秀明 (見附市)



退職まで一か月弱というところで3・11に遭遇。数日後には南相馬からの避難民の受け入れが始まり、駆けつけてくれたボランティアと一緒に世話をしたのが、つい昨日の日のようです。

現職時代を振り返る気持ちの余裕もないまま一年余が過ぎました。今年度は地元区長を仰せつかることに。現職時代不義理をしていた地域で目下奮闘中です。かつて事務局を担当した組織に委員として参加する場面もあり、感慨深いものがあります。

退職を機に、私自身の生涯学習をと思いましたが、なかなか手がつきません。とはいえ、実は誘われて目下似つかわしくない？フルートに挑戦中。これを手始めに文字通りの生涯学習を、と思っているところです。

information

上越市「学び愛フェスタ」のお知らせ

上越市教育委員会では広げよう学びの輪「学び愛フェスタ」を開催します。

日時：11月17日(土)10:00～15:00

会場：リージョンプラザ上越、上越科学館、上越市教育プラザ、上越観光物産センター

入場無料です。
どなたでも参加できます。

- 1 まちづくりに向けた中学生フォーラム
中学生が集まり、みんなで考えたまちづくりを市長に提言
 - 2 ティーチャーズワークショップ
学校の栄養職員、事務職員、養護教諭のお仕事紹介
ALTと英語で楽しもう
 - 3 志ある人づくり シンポジウム
「夢や志をもってたくましく生きる人づくり」を目指して、これからの社会を築く子どもをどんな人間に育てていくかを話し合います。
 - 4 上越教育大学の催し
・ストレス解消・集中力アップ「ヨガ紹介と体験」
・幼児教育（ポスター掲示）
 - 5 その他も盛りだくさん
・シンポジウム「科学的リテラシー向上プロジェクト」
・フォーラム「発達障害のある子どもたちへの支援」
・教職員大学院学校支援プロジェクト
・パネルセッション「学校用ソフトと教育メディア」
・授業公開「付属中 ICT機器・デジタル教材活用例」11月20日実施
・キャリア教育シンポジウム
・地震と上越地域の地盤
・小学校等パネル展示
・郵便の父 前島密コーナー など
- 問い合わせ先 上越市教育委員会
TEL 025-545-9243
E-mail: kyouikusunomu@city.jouetsu.ig.jp

事務局長のつぶやき
あ
と
が
き

道路ふれあい月間

毎年8月は「道路ふれあい月間」です。

『ありがとう 未来へ続け この道路』

平成24年度道路ふれあい月間推進標語

小学生の部優秀賞 長岡市立前川小学校 大矢祐介 さん

新潟県道路整備協会

会長(田上町長) 佐藤 邦義

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内

TEL 025 (285) 0041 FAX 025 (285) 1609

田原